

～歌舞伎と現代劇の狭間を行き来する快作～
ART TOWER MITO PRESENTS 東京芸術劇場 Produce
木ノ下歌舞伎『勸進帳』開催のお知らせ

水戸芸術館 ACM 劇場ではこの秋、「木ノ下歌舞伎『勸進帳』」を開催いたします。
歴史的な文脈を踏まえつつ、現代における歌舞伎演目上演の可能性を発信する「木ノ下歌舞伎」
による快作を、ぜひ貴媒体にてご紹介いただきますようお願い申し上げます。



木ノ下歌舞伎『勸進帳』(2016) 監修・補綴:木ノ下裕一 演出・美術:杉原邦生 撮影:井上嘉和 提供:KYOTO EXPERIMENT事務局

本公演の魅力

世界を魅了する木ノ下歌舞伎が、満を持して水戸に初登場。

歴史的な文脈を踏まえつつ、現代における歌舞伎演目上演の可能性を発信する「木ノ下歌舞伎」。
そんな彼らの代表作である本作は、2010年初演、2016年に再創作、2018年には国を超え、日仏友好
160年記念にフランス・パリで開催された“ジャポニスム 2018”の公式プログラムとして招聘を受け、現
地で好評を博しました。

そんな世界を魅了する木ノ下歌舞伎の注目作が満を持して、水戸に初登場します。

歌舞伎の代名詞的作品『勸進帳』を大胆に再構築し、既成概念を打ち破った快作

主宰の木之下裕一は、古典である歌舞伎を現代劇として再解釈し、その魅力を今に伝えています。
原題である『勸進帳』は、歌舞伎の代名詞的な人気作で、源義経・武蔵坊弁慶たちによる関所越えを
描いた忠義の物語。…ですが今回、<関所=境界線>として読み解き、国境・現在と過去・主と従・観
客と舞台…といった現代社会を取り巻くあらゆる<境界線>が交錯する、多層的なドラマへと再構築。
歌舞伎と現代劇の狭間を行き来する快作が生まれました。

■木ノ下歌舞伎

歴史的な文脈を踏まえつつ、現代における歌舞伎演目上演の可能性を発信する団体。あらゆる視点から歌舞伎にアプローチするため、主宰である木ノ下裕一が指針を示しながら、さまざまな演出家による作品を上演するというスタイルで、京都を中心に2006年より活動を展開している。

■木ノ下裕一

木ノ下歌舞伎 主宰。1985年和歌山市生まれ。

2006年、京都造形芸術大学在学中に古典演目上演の補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。代表作に『三人吉三』『娘道成寺』『義経千本桜一渡海屋・大物浦一』など。

2016年に上演した『勸進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。第38回（令和元年度）京都府文化賞奨励賞受賞。令和2年度京都市芸術新人賞受賞。平成29年度京都市芸術文化特別奨励制度奨励者。渋谷・コクーン歌舞伎『切られの与三』（2018）の補綴を務めるなど、古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。



■公演概要

名 称	ART TOWER MITO PRESENTS 東京芸術劇場 Produce 木ノ下歌舞伎『勸進帳』
日 時	2023年10月27日(金)19:00開演、10月28日(土)14:00開演
会 場	水戸芸術館 ACM 劇場
料 金	全席自由（入場整理番号付）一般 4,500円、U-25（25歳以下）3,500円 好評発売中
取扱い	水戸芸術館（9:30～18:00／月曜休館） [電話] チケット予約センター Tel.029-225-3555 [WEB] https://www.arttowermito.or.jp/ticket/ [窓口] エントランスホール内チケットカウンター
監修・補綴	木ノ下裕一
演出・美術	杉原邦生 [KUNIO]
出演	リー5世、坂口涼太郎、高山のえみ、岡野康弘、亀島一徳、重岡 漠、大柿友哉
スタッフ	音楽：Taichi Kaneko／照明：高田政義／音響：星野大輔／衣装：岡村春輝／振付：北尾 亘／ 演出助手：鈴木美波／舞台監督：大鹿展明／制作進行：本郷麻衣、清水翼、武田知也／ 宣伝美術：外山 央
主 催	公益財団法人水戸市芸術振興財団
企画制作	東京芸術劇場・木ノ下歌舞伎／一般社団法人樹来舎
制作協力	一般社団法人ベンチ
助 成	一般財団法人地域創造

■お問い合わせ

ご掲載について：水戸芸術館 広報係 中山・川崎 Tel 029-227-8111
Mail kouhou@arttowermito.or.jp

企画について： // 演劇部門 櫻井・比嘉 Tel 029-227-8123

住所 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町 1-6-8

Web <https://www.arttowermito.or.jp/>